

各関係機関長 殿  
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病害虫防除所長  
(公印省略)

平成20年度農作物病害虫発生予察情報について

平成20年度農作物病害虫発生予報第4号を発表したので送付します。

---

### 平成20年度農作物病害虫発生予報第4号

平成20年6月30日  
徳 島 県

#### I. 普通作物

##### 早期水稻

###### 穂いもち

###### 1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年より少ない(前年並)

###### 2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では、葉いもちの発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が30.1%、発病度が2.0)。
- (2) 6月27日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、日照時間は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、やや発生抑制的気象条件である。

###### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉いもちの発生の多い圃場では、薬剤の登録内容を確認の上、粒剤の場合は出穂10日前までに、液剤の場合は出穂直前までに防除を行なう。また、出穂後曇雨天が続いた場合は、穂揃期にも防除を行なう。

###### 紋枯病

###### 1) 予報内容

発生程度：「少～中」、発生量：平年並(前年並)

###### 2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では、発生圃場率は5.3%、発生株率は2.9%で、ほぼ平年(10.5%、2.5%)並の発生であった。
- (2) 6月27日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、日照時間は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

###### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。

###### セジロウンカ

###### 1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年より少ない(前年より少ない)

###### 2) 予報の根拠

- (1) 美波町由岐地区における本田調査において、初飛来を6月20日に確認した。
- (2) 6月後半の巡回調査では、発生圃場率は5.3%、株あたり虫数は0.002頭で、平年(52.3%)

0.62頭)より発生が少なかった。

(3) 6月27日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、日照時間は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 箱施薬殺虫剤は、残効性に優れるものでも施用後約2ヶ月でその効力はほぼ消失する。
- (2) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。

## 斑点米カメムシ類

(6月30日付けで注意報発令中)

### 1) 予報内容

発生程度：「多」、発生量：平年より多い(前年より多い)

### 2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の水田周辺雑草地における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では、19地点のうち13地点で生息を確認した。捕獲地点率は68.4%、1地点当たりの捕獲虫数は12.3頭で、平年(30.7%、2.9頭)より発生が多かった。
- (2) 6月27日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、日照時間は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を、水稻出穂の10~15日前までに除去・処分する**(但し、出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行なわない)**。
- (2) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行なう。
- (3) 薬剤散布については各薬剤の登録内容を確認のうえ、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行なう。

## 普通期水稻

### 葉いもち

#### 1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年よりやや少ない(前年並)

#### 2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が11.6%、発病度が0.6)。
- (2) 6月27日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、日照時間は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、やや発生抑制的気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生状況に十分注意し、曇雨天が続き上中位葉へ病斑の進展が見られる場合は、薬剤散布を行なう。

## セジロウンカ

#### 1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年より少ない(前年より少ない)

#### 2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が34.3%、株あたり虫数が0.23頭)。
- (2) 6月27日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、日照時間は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。

## サツマイモ

食葉性害虫(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ等)

#### 1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年並(前年よりやや少ない)

#### 2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では、発生圃場率は100%、被害度は3.3で、ほぼ平年(75.0%, 5.3)並の発生であった。
  - (2) 6月のフェロモントラップへのハスモンヨトウおよびシロイチモジヨトウの誘殺虫数は、ほぼ平年並で推移している。
  - (3) 6月27日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、日照時間は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。
- 3)防除上注意すべき事項
- (1) 多発すると防除が困難になるので、若齢幼虫期に徹底防除を図る。

#### ハダニ類

- 1) 予報内容  
発生程度：「少」、発生量：平年並(前年よりやや少ない)
- 2) 予報の根拠
- (1) 6月後半の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が56.5%、寄生葉率が8.0%)。
  - (2) 6月27日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、日照時間は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

## II. 果樹

### カンキツ

#### かいよう病

- 1) 予報内容  
発生程度：「少」、発生量：平年並～やや多い(前年並～やや多い)
- 2) 予報の根拠
- (1) 県予察圃場における春葉での発生(6月20日調査、無防除区)は、発病葉率が29.0%、春葉発病度が9.0で、平年(10.3%, 3.1)より発生が多かった。果実での発生(6月20日調査、無防除区)も、発病果率が6.0%、果実発病度が0.9で、平年(2.3%, 0.5)より発生が多かった。
  - (2) 6月前半の巡回調査では、発生圃場率が30.0%、春葉発病度が0.14で、ほぼ平年(24.7%, 0.2)並の発生であった。
  - (3) 6月27日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、日照時間は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、発生に中立的である。
- 3) 防除上注意すべき事項
- (1) 罹病枝のせん除を行ない、常発園や罹病性品種園では防除を励行する。
  - (2) 風当たりの強い園では防風対策を講じる。

#### 黒点病

- 1) 予報内容  
発生程度：「少」、発生量：平年並(前年よりやや多い)
- 2) 予報の根拠
- (1) 県予察圃場における果実での発生(6月20日調査、無防除区)は、発病果率が46.0%、果実発病度が11.4で、ほぼ平年(46.0%, 7.4)並であった。
  - (2) 6月27日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、日照時間は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、発生に中立的である。
- 3) 防除上注意すべき事項
- (1) 枯れ枝は適除して園外へ持ち出して処分し、病原菌密度の低下に努める。
  - (2) 落花期に薬剤防除を行い、その1ヶ月後、または降水量200～250mmごとに防除を励行する。

#### そうか病

- 1) 予報内容  
発生程度：「少」、発生量：平年並(前年並)

## 2) 予報の根拠

- (1) 県予察圃場における春葉での発生(6月20日調査, 無防除区)は, 発病葉率が43.6%, 春葉発病度が10.0で, ほぼ平年(46.3%, 17.2)並の発生であった。果実での発生(6月20日調査)は, 発病果率が58.0%, 果実発病度が24.9で, ほぼ平年(62.6%, 24.9)並の発生であった。
- (2) 6月前半の巡回調査では, 春葉では発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が20.1%, 春葉発病度が0.7)が, 果実では発生圃場率が10.0%, 果実発病度が0.015で, 平年(8.7%, 0.7)並~やや少なめの発生であった。
- (3) 6月27日発表の1ヶ月予報では, 気温は高い確率が50%, 日照時間は平年並または多い確率ともに40%と予想されており, 発生に中立的である。

## 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多い園では, 黒点病の防除を兼ねて薬剤防除を行なう。

## ミカンハダニ

### 1) 予報内容

発生程度:「少」, 発生量:平年よりやや少ない(前年並)

### 2) 予報の根拠

- (1) 県予察圃場(6月20日調査, 無防除区)では, 発生を認めなかった(平年同時期は寄生葉率が11.3%, 1葉あたり生息虫数が0.18頭)。
- (2) 6月前半の巡回調査では, 発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が62.2%, 寄生葉率が15.5%)。
- (3) 6月27日発表の1ヶ月予報では, 気温は高い確率が50%, 日照時間は平年並または多い確率ともに40%と予想されており, やや発生助長的気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には, 葉裏まで薬液が充分かかるよう, 丁寧に薬剤を散布する。
- (2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので, 同一系統薬剤の連用を避ける。

## ナシ

### ハダニ類

#### 1) 予報内容

発生程度:「少」, 発生量:平年並(前年よりやや少ない)

#### 2) 予報の根拠

- (1) 6月前半の巡回調査では, 発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が6.3%, 寄生葉率が0.2%)。
- (2) 6月27日発表の1ヶ月予報では, 気温は高い確率が50%, 日照時間は平年並または多い確率ともに40%と予想されており, やや発生助長的気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には, 葉裏や徒長枝にも充分な量の薬液がかかるよう散布する。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので, 同一系統薬剤の連用は避ける。

## 果樹共通

### カメムシ類(ツヤアオカメムシ, チャバネアオカメムシ等)

#### 1) 予報内容

発生程度:「少」, 発生量:平年よりやや少ない(前年よりやや少ない)

#### 2) 予報の根拠

- (1) 予察灯へのツヤアオカメムシ, チャバネアオカメムシの誘殺数は, 平年より少なめで推移している。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月旬	勝					浦					田丁				
	2008年	2007年	2006年	2005年	平 年	2008年	2007年	2006年	2005年	平 年	2008年	2007年	2006年	2005年	平 年
6.1	8	27	475	1	112	3	14	17	0	31					
6.2	21	22	193	4	93	2	5	25	1	15					
6.3	7	44	405	2	118	1	86	38	0	27					
6.4	30	79	459	7	141	3	75	8	0	22					
6.5	24	256	188	3	150	4	37	6	0	24					
6.6		188	344	2	165		31	18	2	23					
7.1		98	196	0	109		6	2	0	24					

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月旬	勝					浦					田丁				
	2008年	2007年	2006年	2005年	平 年	2008年	2007年	2006年	2005年	平 年	2008年	2007年	2006年	2005年	平 年
6.1	2	14	73	0	30	2	8	4	0	52					
6.2	4	26	22	2	31	3	5	1	0	18					
6.3	7	117	62	0	52	1	19	3	0	12					
6.4	3	32	38	0	40	3	36	1	2	21					
6.5	7	132	27	2	64	6	75	3	2	70					
6.6		94	114	2	93		82	10	2	87					
7.1		51	80	0	127		91	4	0	109					

(2) 6月27日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、日照時間は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2) 夜行性なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

### Ⅲ. 野菜

#### 夏秋ナス

##### うどんこ病

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年並(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では、発生圃場率は33.3%、発病葉率は1.2%で、ほぼ平年(21.3%、2.3%)並の発生であった。
- (2) 6月27日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、日照時間は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 窒素質肥料の過用を避ける。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

##### アザミウマ類

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年並～やや多い(前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では、発生圃場率は66.7%、寄生葉率は2.9%、被害果率は0.9%で、ほぼ平年(45.3%、2.9%、1.0%)並の発生であった。
- (2) 6月27日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、日照時間は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。寄生場所は主に葉であるが、果実の萼の裏側にも好んで寄生するので、防除の際には、葉裏や果実の萼部に充分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。

#### アブラムシ類

##### 1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年並(前年並)

##### 2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では、発生圃場率は11.1%、寄生新梢率は1.1%で、ほぼ平年(17.7%、0.8%)並の発生であった。
- (2) 6月27日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、日照時間は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、防除の際には、葉裏に充分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

#### ハダニ類

##### 1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年よりやや多い(前年よりやや多い)

##### 2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では、発生圃場率は44.4%、寄生葉率は8.8%で、平年(32.8%、2.8%)より発生がやや多かった。
- (2) 6月27日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、日照時間は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているので、防除の際には、葉裏に充分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

#### IV. その他

- 1) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。

#### 発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所  
テレホンサービス：0883(26)1199  
URL：<http://www.green.pref.tokushima.jp/boujyosyo/>

○病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。